岡崎 ものづくりフェア 製造企業など集結

アイデア凝らし 技術アピール

高等技術専門校訓練生も出品

岡崎市内で27、28日に開かれた三河地方最大級のビジネス交流会「ものづくり岡崎フェア2025」。計93の製造企業や研究機関などが集い、新製品やこだわりの技術をアピールする熱気であふれた会場で、三河地方のものづくりの最前線を追った。（谷悠己）

東海熱処理研究センターで試作した部品を手に商談する電気興業の担当者ら＝いずれも岡崎市の岡崎中央総合公園総合体育館で

「旋盤のマジシャン」。こんなキャッチフレーズと魔術師のロゴでPRしていたのは、バイトホルダと呼ばれる旋盤で金属を削る刃先の部品を得意とする豊橋市の切削工具メーカー「あおやま」。従来は黒一択だったバイトホルダを業界で初めて赤、青、緑、紫、白、黄、茶で多色展開した。

今年2月の発表以来、識別がしやすく取り換えミスが起きにくいことから旋盤を使う事業所からの問い合わせが相次いでいるという。青山雄治社長は「ずっと単色で作っていたのでカラフルに面白くしようと始めたが、反響に驚いている」と手応えを感じていた。

あおやまが出展した色鮮やかなバイトホルダ

三河高等技術専門校の訓練生の製作品

自動車産業の集積地である利点を生かし、県外から三河地方に進出する動きも。熱処理加工設備メーカー「電気興業」（東京）は昨年、自動車部品の試作から装置の保守まで一貫対応する東海熱処理研究センターを岡崎市上三ツ木町に開設した。担当者は「地元の自動車メーカーや部品会社の担当と頻繁に会えるので受注の掘り起こしにつながっている」と話し、センターで試作した部品を手に来場者と商談を重ねていた。

愛知サテライト工場で製作した工具をPRするKamogawaの担当者

機械工具販売の「Kamogawa」（京都市）は2019年に開設した愛知サテライト工場（刈谷市泉田町）で製造した切削工具を出展。エンジン回りを中心とする三河地方の自動車部品メーカー各社の需要に合わせ刃先の形状のミリ単位の修正に応じているといい、担当者は「早ければ翌日納入できる体制を強みに、競合他社との差別化を図っている」と話した。

並み居る企業に混じり、県立三河高等技術専門校（岡崎市美合町）も訓練生らが製作した万力や3Dプリンター作品を展示。市川哲郎専門員は「今年から最新のロボットシステムを学べる専門科も新設された。三河地方のものづくりを下支えする人材を育成していきたい」と意気込んでいた。

新城できょうまで「戦国博覧会」

ゲーム、屋台村にぎわう

長篠・設楽原の戦い 学術講演も

武将にふんした関係者に見守られ、勢力拡大ゲームを楽しむ参加者ら＝新城市下川で

長篠・設楽原の戦いから450年となるのを記念するイベント「戦国博覧会」が30日、新城市下川の新城文化会館で始まった。専門家の講演など学術的に充実した内容で、大勢の歴史ファンが訪れた。31日まで。

武田勝頼と織田信長・徳川家康の連合軍が激突した歴史的に重要な戦いの舞台が市内にあることから、市制20周年記念事業の一つとして市と市教委が主催した。

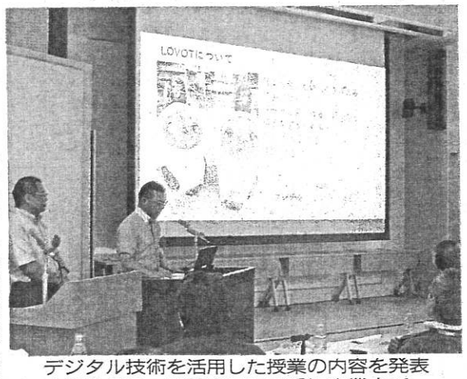
「戦国市場」には県内外のゆかりの地の関係者が出展し、地元の長篠・設楽原検定実行委が初級と中級の検定を実施した。屋外の「戦国屋台村」では飲食物の模擬店が並んだ。

「戦国寺子屋」では、武田氏の金山があった山梨県身延町が砂金採り体験、桶狭間の戦いの古戦場伝説地がある豊明市が「勢力拡大ゲーム」の体験会を開くなどして盛り上げた。

講演会は2日間で大学教授ら6人が最新の研究成果などを紹介。初日の小和田哲男静岡大名誉教授ら2人の回は約400人の定員がほぼ満席に。愛知大の山田邦明教授は、武田氏の攻撃目標がまず岡崎城、次に吉田城で、長篠城は3番手だったことを示し「設楽原での合戦ばかり注目されるが、長篠城での頑張りがあったからこそ」と解説した。（小沢伸介）

教育DX 5高校が発表

岡崎 セラピーロボ、3D空間で設計…



デジタル技術を活用した授業の内容を発表する教員ら＝岡崎市岡町の愛知産業大で

デジタル技術を活用した学びを進める「教育デジタルトランスフォーメーション（DX）」をテーマにしたシンポジウムが28日、岡崎市岡町の愛知産業大であった。文部科学省の「DXハイスクール」に採択され、同大と連携して教育DXに取り組む県内の高校の担当教員らが実践内容を発表した。

各高校の事例を共有し、教育DXや高大連携のあり方を考える機会にと、同大が初めて開催。教育関係者ら約200人が参加した。

小牧工科、碧南工科、日進、岡崎商業、愛知総合工科の5高校が取り組みを発表。セラピーロボットを特別支援学校の生徒らに体験してもらいストレス軽減などの効果を調べたり、同大の教員によるオンライン授業を受けながら建物を3D空間で設計する方法を学んだりしたことを説明した。

岡崎商業高は、校内外で販売活動などを行う部活動「OKASHOP部」の業務改善に向けて、人工知能（AI）を活用したレジシステムの開発などを計画していることを紹介。会場からは「AIではなく、人がすべきことは何かを考えることも大切」といった意見が出た。

基調講演では東京都立大客員教授で日本バーチャルリアリティ学会会長の池井寧さんが「VR（仮想現実）で拓く教育DXの可能性」と題して話した。（平井一敏）

お断り 「なごやか外交」は休載します。

三河だより

数楽チャレンジ

とある学習塾講師が動画サイトで高校受験数学を解説するチャンネルを時々見ている。まず問題を解いてから再生し、講師の説明を聞く。ズバリ正解だとうれしいし、計算を少なくする工夫などいろんな解法を教わると賢くなった気がする。

中学生の頃は数学が好きでも得意でもなかった。テストでは難問に見切りをつけられず時間を無駄に費やし、解けそうな問題で焦って単純な計算ミスをしたものだ。

夏休み中の小学5年生から中学3年生を集め、数学の問題3問を3時間かけて解く新城市教委のイベント「数楽チャレンジ」が、昨年で終わってしまった。取材がてら一緒に解きたいと、ひそかに機会をうかがってきただけに残念でならない。

市教委によると、終了は担当していた校長が定年を迎えたため。毎回、準備の負担が重く、とりわけ作問には苦労していたそうだ。長年の努力に頭が下がる。算数や数学で一つの問題にじっくりと向き合い、ひたすら思考する経験は子どもの将来の糧になるだろう。（小沢伸介）

アラカルト

◇名古屋深雪会 深雪アートフラワー合同展～アニバーサリーローズ～ 9月2日（火）～4日（木）前10～後5、名古屋市中村区名駅4、ウインクあいち5階の小ホール2。アートフラワー作品の展示・即売や体験コーナー、2日前11からは、三代目飯田恵秀さんのトークイベントがある。最終日は後4まで。

◇愛知学院大モーニング・セミナー 9月9日（火）前7～8、名古屋市千種区楠元町1、愛知学院大楠元学舎110周年記念講堂。岐阜大客員教授で名古屋都市センター特任アドバイザーの加藤義人さんが「リニア時代の東海創生～人口減少下におけるリニア新幹線への期待～」の演題で話す。当日先着150人。参加無料。